

「生きるということ」オンラインで出前授業

キャリア教育の一環として、11月8日から12日に「生きるということ」と題したオンラインによる出前授業を学年や学級を単位として行いました。

13人の方々が、子どもたちにご自分の子どもの頃の様子や今の職業に就いた経緯について語っていただきました。

田中さんは、くらげの面白さをたくさんスライドを使って子どもたちに伝えられました。田中さんは、以前は今とは異なる業種に就いていましたが、もともと生き物が好きだったこともあり、もう一度動物の専門学校で学びました。水族館勤務を経て、現在は、地元クラゲ専門の「くにみクラゲ水族館」を開館しようとしています。動物の命に関わる仕事なので、正しく常に新しい知識を持つため勉強する必要がありますが、「好きな事を勉強するのは苦しくない」と語りかけていました。

老舗餅屋の十代目の森さんは、仕事場から白衣を着ての登場です。お餅を作る工程を動画で示され、子どもたちはじっと見入りながら、機械の動きに合わせて「ドン、ドン」と声に出していました。お餅を作る仕事ですが、いろんな人がお店に買いに来て「おいしい」と言ってくださることが、やりがいとなっていると話されました。小学生の頃、将来の夢を特に持っていなくても、「みんなと仲良く暮らしながら、幸せになるために何をすれば良いかを考えていけばやりたいことにつながる」と森さんは、子どもたちに伝えました。

クリーニング師の橋本さんは、東京で働いているとき「何を人生で優先するか」を考え、家族を大事にして自然の多い故郷の福井で子どもを育てるために戻ってきました。曾祖父のころからの家業のクリーニング店で働き、お客さんの様々な要望に応えようと努力しています。子どもたちからの質問に答えながら、橋本さんはクリーニングについて詳しく教えてくださいました。

新聞記者の土生さんは、日頃持ち歩くカメラとペン、ノートを見せて、子どもたちに職業を当てさせました。尻込みせず恥ずかしながら興味を持ち、相手から聞くことが記者の心構えですと話しながら、子どもたちにも積極的に質問するよう促しました。

今回のZOOMでのオンライン出前授業では、福井市のキャリアコーディネーターを務める菊（本校PTA会長）さんに、準備の段階から大変なお世話をいただきました。また、登場していただいた方々は、説明用のスライドや日頃使っている道具を示しながら、子どもたちの関心を高めてくださいました。お忙しい中、ありがとうございました。



バスガイドの松田さんのお話



新聞記者の土生さんのお話



獣医の寺本さんのお話



みそ作りの多田さんのお話



老舗餅屋の森さんのお話